

平成20・21・22年度文部科学省委嘱並びに埼玉県教育委員会指定
確かな学力の育成に係る実践的調査研究事業(本発表)

基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、
 確かな学力を身につけさせる指導方法の研究
 —— 学び方指導・繰り返し学習・家庭学習充実による学習意欲の向上 ——

校訓「立志」 学校教育目標「自立の力を育む」



<知育>



<徳育>



<体育>



<環境>



研究主題設定の理由

本校は、「知・徳・体」の調和のとれた生徒を育成し、保護者・地域から信頼され、活力のある学校を目指している。平成15年度から埼玉県教育委員会の「彩の国パイオニアスクール」、そして「彩の国5つのふれあい県民運動」等に取り組み、着実に成果をあげてきた。更に、学力の向上を図り、「知・徳・体」の調和のとれた生徒の育成を図るため、生徒の実態を踏まえた研究主題を設定した。

各教科において、確かな学力を身につけさせるために、基礎的・基本的な知識・技能の確かな定着を図る指導方法を工夫していくことを共通課題とした。しかし、何よりも生徒の学ぼうという意欲を引き出さなければ効果は望めないと考え、副題として、「学び方指導」「繰り返し学習」「家庭学習充実」に取り組むこととした。そうすることが、本校の目指す教育「知・徳・体」の調和のとれた生徒を育成することができると考えたからである。



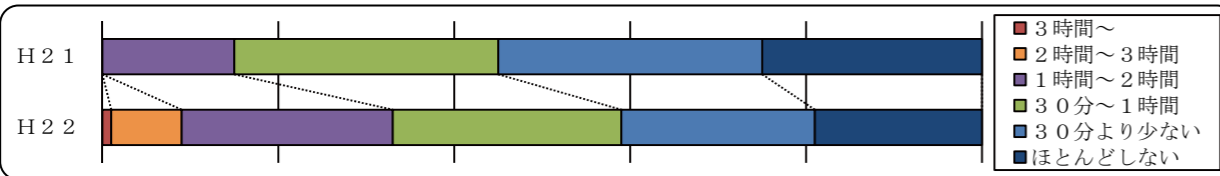
越生町立越生中学校

〒350-0404 埼玉県入間郡越生町大字成瀬618番地
 TEL 049-292-3114 FAX 049-292-3502
 ホームページ http://www013.upp.so-net.ne.jp/ogose_jhs/
 メール ogose@yd6.so-net.ne.jp

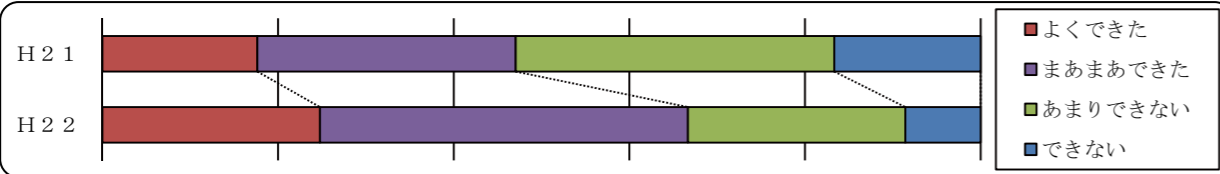
(4) 家庭連携推進部

この部会では、学力の向上には家庭との連携が不可欠であると考え研究を進めた。そこで、生徒と保護者を対象とした家庭学習調査や学校評価をもとに方策に取り組んだ。特に、「シラバス(学習の道しるべ)」の活用で自主的な家庭学習を身につけることや、「私の生活記録」で毎日の学習時間を確認し教師が点検やコメントを加えることで家庭学習の定着化を図ってきた。その結果、まだ十分ではないが、少しずつ時間数も増え、取り組む姿勢も良くなってきた。

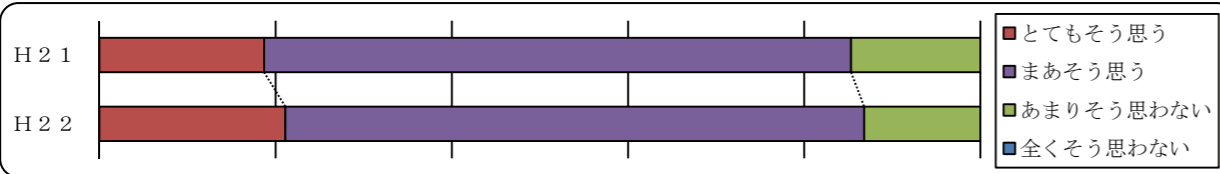
【家庭学習「授業時間以外に、1日平均どれくらい勉強しますか」(3年生)「越生中アンケート」より】



【学習意欲「自分から進んで発表することができる」(3年生)「越生中アンケート」より】



【「学校は、繰り返し学習や確認テスト等を通じて、基礎・基本の定着を図っているか」(保護者学校評価)より】



3 研究の成果

平成20年、21年、22年の3年間、文部科学省委嘱並びに埼玉県教育委員会指定の「確かな学力の育成に係る実践的調査研究事業」に取り組んできた。

主題を「基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、確かな学力を身につけさせる指導方法の研究」、副題を「学び方指導・繰り返し学習・家庭学習充実による学習意欲の向上」のもと、県教育局義務教育指導課、教育局西部教育事務所、県立総合教育センターの諸先生方の直接のご指導をいただきながら研究に取り組み、「学力向上」という課題に向かうことができた。まだまだ途中段階ではあるが、3年間の伸びには著しいものがあった。その要因について代表的なものを挙げ、研究の成果としたい。

(1) 小・中学校の連携による成果

学力向上は町ぐるみの取組であるという越生町教育委員会の方針のもと、越生小学校、梅園小学校と越生中学校が一丸となって学力向上に向け取り組めたこと。

(2) 校内の研究体制による成果

学力向上には、「徳」や「体」の土台と「知」のバランスが重要であるという共通理解のもと、「学力向上推進部」「生活向上推進部」「家庭連携推進部」がしっかり機能し、全職員で取り組めたこと。

特に、各教科部は率先して研究授業に臨み、少しでも質の高い授業を提供することに努めたこと。

(3) 生徒指導体制の確立による成果

生徒指導部会や教育相談部会がそれぞれ機能し生徒指導体制が確立できたこと。生徒指導の充実や学力の向上により、非行問題行動や不登校の数も大きく減少したこと。

(4) 教育環境の整備による成果

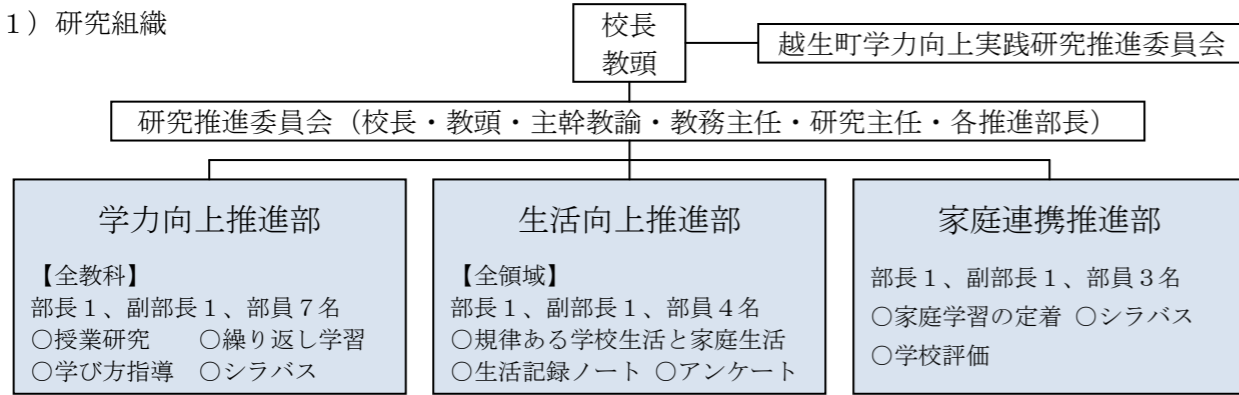
平成17・18年度の校舎耐震補強及び改修工事による木質化、全教室にエアコン設置、トイレ改修、平成19年度から2学期制の導入による授業時数の確保などの取組、さらに、平成21年度の体育館の耐震補強及び改修等、素晴らしい教育環境が整ったこと。

(5) 保護者・地域の協力による成果

保護者や地域の方々が、我が町の学校として愛校心に富み、教育方針に賛同し、PTA活動をはじめ学校応援団等の支援を惜しみなくしたこと。

1 研究の概要

(1) 研究組織



(2) 3年間の取組 (平成20・21・22年)

① 学力向上推進部

- 「繰り返し学習」「学び方指導」を取り入れた指導方法の研究をする。
- 指導案を検討し、指導者を招聘して授業研究を実践する。
- 今までのシラバスを見直し改善を図り、「学習の道しるべ」として生徒に配布する。
- 教科部会の充実を図り、教材研究の充実を図る。
- 小・中学校の連携、「国語」「算数・数学」「外国語活動・外国語」を中心に取り組む。

② 生活向上推進部

- 道徳では、「自己の向上」「個性の尊重」に力を入れて取り組む。
- 学級活動では、「学級生活の見直し」「学習の目標と心がまえ」「学業生活の充実」に取り組む。
- 「規律ある態度」の調査から実態把握をし、生活面の向上を図る。
- 「生活記録ノート」に「越生町3つの㉞」を取り入れ、生活面の充実を図る。

③ 家庭連携推進部

- 「学習に関する意識と実態」の調査を実施し、生徒・保護者への啓発を図る。
- 学校だよりやシラバス (学習の道しるべ) に「学習Q&A」を掲載する。
- シラバス (学習の道しるべ) に「家庭学習の仕方」「ノートの取り方」を掲載し、勉強方法を周知する。
- 「国語・社会・数学・理科・英語」の宿題について、質や量などを検討し実践する。
- 「生活記録ノート」へ家庭学習時間を記入し、教師が点検することにより定着化を図る。

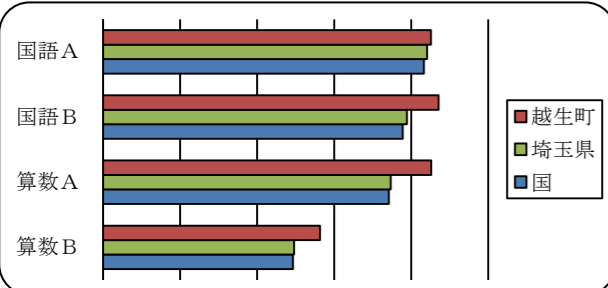


2 研究実践

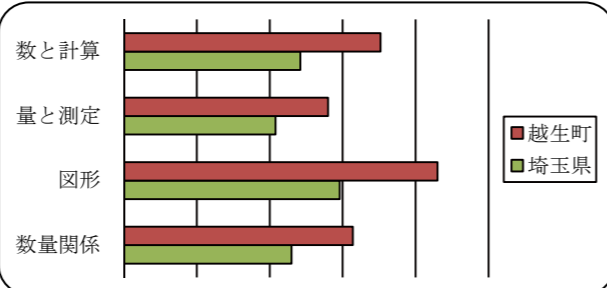
(1) 小・中学校の連携

越生町教育委員会では、越生中学校の研究委嘱事業に伴い、各学校の教頭、主幹教諭 (教務主任)、研究主任、教育委員会事務局からなる学力向上実践研究推進委員会を組織して学力向上に取り組んだ。学力向上には、小・中学校の連携が不可欠であると考え研究を進めた。特に、越生小学校では、算数の校内研究を、梅園小学校では、国語の校内研究を進め、中学校と一貫した指導ができるよう連携を図った。また、生活規律でも、9年間の見直しをもった指針を定めて取り組んだ。2校の小学校は、本年度の全国学力・学習状況調査や県学習状況調査において、下記のような成果を見せた。

【 H22 全国学力・学習状況調査 越生町6年生 】



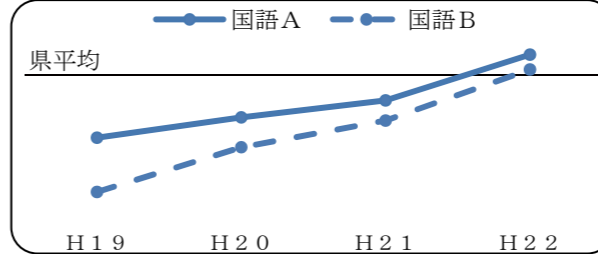
【 H22 県学習状況調査 (算数) 越生町5年生 】



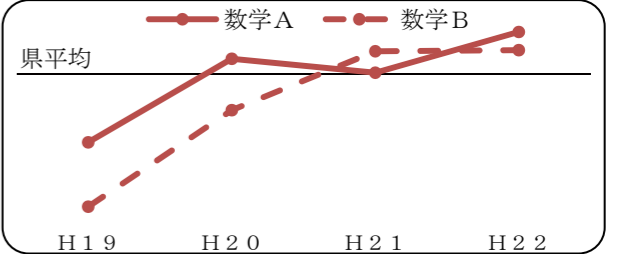
(2) 学力向上推進部

この部会では、「学び方指導」「繰り返し学習」について各教科で実践し、主題に迫れるように研究した。各教科部会では、研究授業を進めながら指導力の向上に努めた。数学では全授業でTTまたは少人数指導を行い、1単位時間の授業を大切にしながら分かる授業の実現を目指した。あわせて、シラバス (学習の道しるべ) の工夫・改善をし、生徒の学習意欲の向上に努めた。その結果、「全国学力・学習状況調査」、「県学習状況調査」、「教育に関する3つの達成目標の達成率」で、下記のような伸びを見ることができた。

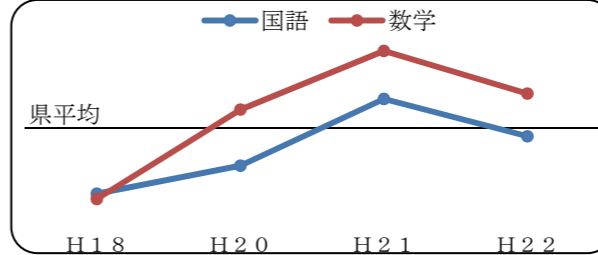
【 全国学力・学習状況調査 国語 】



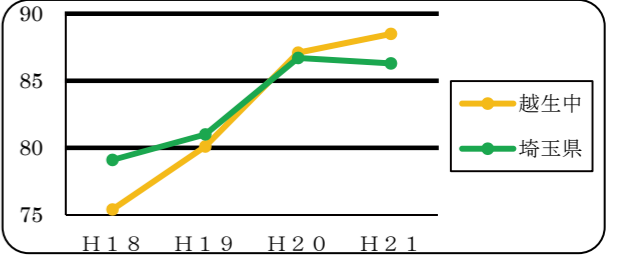
【 全国学力・学習状況調査 数学 】



【 県学習状況調査 (国語・数学) 】



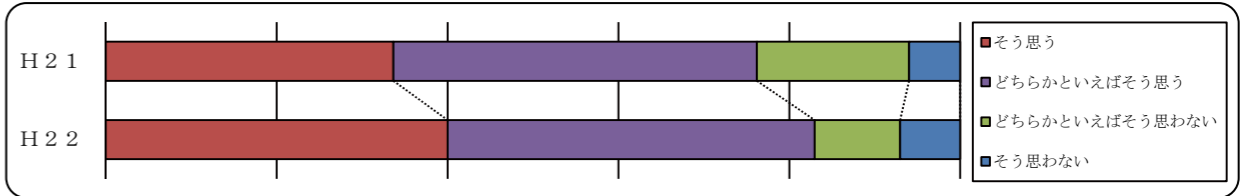
【 教育に関する3つの達成目標 達成率 (%) 】



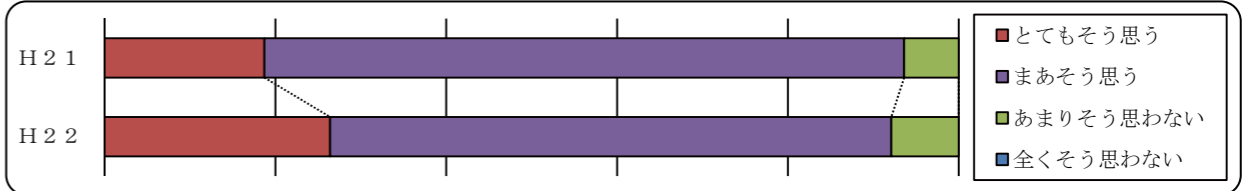
(3) 生活向上推進部

この部会では、学力の向上には、基本的な生活習慣を身につけ、規律ある態度を育成することが欠かせないと考え、取り組みを進めた。そのためには、子どもたちと接する場をできる限り増やしたり、チャンス相談を行ったりするなど積極的な生徒指導が必要と考え取り組んだ。登校や下校の安全指導の際には、全教職員が一丸となって指導にあたった。また、体力の面では、体育の授業と部活動の充実を図ることで体力の向上を目指した。その結果、基本的な生活面でも体力の面でも下記のような結果が得られるようになった。

【 学校や勉強に対する意識「学校が好きだ」(2年生) 「県学習状況調査」より 】



【 「学校は『3つの㉞』を実行し、はじめと規律ある態度の育成に努めているか」(全校生徒) 「保護者学校評価」より 】



【 新体力テスト「過去4年間の県平均を上回る項目数」(全24項目) 】

